

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての項目について、家庭・地域（育友会・青少健）と連携を図りつつ、学校内部においても組織的・継続的な実践ができた。</li> <li>「適切な成果指標の設定」と「アンケート内容・実施方法」が課題。</li> <li>「削減する仕事」、「協力することで時間を短くできる仕事」、「やり方を変えることで成果の質を上げられる仕事」を考え出し、実践することが課題。</li> </ul>
2 学校教育目標	「心晴れ晴れ たくましく 学び伸びゆく 晴田っ子」の育成 ～地域に根ざし、夢に向かおう、晴田っ子！～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手の思いに共感し、自分の行為（学び・言動）に責任をもつ子どもの育成。</li> <li>○子どもがノートや鉛筆と同じように、タブレットを道具として活用する授業実践。</li> <li>○業務の平準化（個人・全体）と協働・分担（教科指導・校務）による繁忙期をつくらない働き方改革の推進。</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標				主な担当者
(1) 共通評価項目				
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●「学力向上対策評価シート」に示した「マイプラン」の成果指標を達成した職員85%以上	・「業績評価票」に記した具体的取り組みの実践 ・αドリル等、読解力向上の実践	学力向上Co 教務主任 研究主任
	○全職員による「学びの6か条」の共通理解と共通実践	○「学びの6か条」に関わるアンケートで、「できている」と肯定的な回答をした児童の割合80%以上	・校内研の中で、各自の実践（マイプラン及びタブレットの活用）を具体的実践（具体物）を基に紹介し合う。 ・毎週末、各学級で「学びの6か条」を振り返る。 ・児童会活動（運営委員会）の中に、各学年の達成状況を紹介し合う場を設定する。	
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「責任をもって適切に情報を扱うことができる」と肯定的な回答をした児童の割合80%以上	・情報モラル教育の推進 ・学習を通し、情報に関する個人の権利とその重要性を尊重しようとする態度を育成する。	情報化推進リーダー 学びづくり部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●「困ったことがあれば、先生や保護者へ相談できる」と肯定的な回答をした児童の割合85%以上	・「月のこころ」アンケート（毎月）の実施 ・教育相談週間（年2回：6月、11月）の実施 ・「9割傾聴、1割助言」の実践	
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①「徒歩登校」について、肯定的な回答をした児童の割合90%以上	・毎月調査を行い、意識の高揚を図る（歩く意義、称賛）。	仲間づくり部
	②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	②「朝食を毎日食べている」と回答した児童の割合95%以上	・晴田っ子アンケート（年2回）による朝食喫食率の把握 ・学活や家庭科等で「食の大切さ」について考える時間の設定	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会方針に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・「Happy day（火・金18時まで退勤）」の遵守 ・「働き方改革自己チェック票」入力による前月の省察 ・前月の時間外在校時間実績の省察 ・早期周知による業務の効率的な実施 ・業務改善策（「働き方の6ヶ条」）のブラッシュアップ	教頭 教務主任
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
○地域連携	○地域住民（青少健・育友会）や保護者と連携した教育課程等の実践	○「学校は地域住民や保護者と連携した体験活動・育友会活動に取り組んでいる」と肯定的な回答をした保護者の割合90%以上	・地域住民や保護者に、講師として授業参加（読み聞かせを含む）を促す。 ・各職員が自分の育友会担当部長等と連携を密にする。 ・土曜教室（青少健主催）への積極的な参加	
○人権教育／道徳教育	○自他の人権を大切にしている教育活動の実践	○「自分のことが好きである」と肯定的な回答をした児童の割合70%以上	・「人権フェスタ」や「命を考える週間」の実施 ・人権守り隊による主体的な活動の促進	自分づくり部 児童支援教員 研究主任
○特別支援教育の充実	○子どもの特性を考慮した環境整備（人的・物的）	○特別支援学級在籍の保護者が「個に応じた指導・支援を受けている」と肯定的な回答をした割合90%以上	・道徳科の研究推進 ・道徳科の授業を中心に、様々な道徳的価値にふれさせる。	
○特別支援教育の充実	○「特別支援学級在籍の保護者が「個に応じた指導・支援を受けている」と肯定的な回答をした割合90%以上	○「自分と価値観が違う人も協力できる」と肯定的な回答をした児童の割合70%以上	・「個別的教育支援計画」・「個別の指導計画」に基づき、個に応じた指導・支援を行う。 ・担任と交流学級担任の協働・連携の促進 ・自立活動の実践を全職員で共有化する時間の設定	特支Co 学びづくり部 学力向上Co
○特別支援教育の充実	○「チェックリスト」(「特別支援教育のスタンダード」jp313)の平均値3.5以上の職員の割合80%以上	○「チェックリスト」(「特別支援教育のスタンダード」jp313)の平均値3.5以上の職員の割合80%以上	・児童理解を深める研修会の実施（インシデントプロセス法、氷山モデル、授業のUD化）	